

社会・環境部会 2008年 春の総会 議事次第

日 時 : 平成20年3月28日(金)12時15分 ~
場 所 : 大阪大学 N会場

議 題

1. 部会長挨拶
2. 平成19年度決算概要及び20年度予算について
3. 平成19年度 活動の概要報告と次年度活動についての意見交換
4. 平成20年度部会運営体制
5. 平成19年度部会表彰について
6. その他

配布資料

平成19年度収支概要及び20年度予算(事務局削減案)
平成19年度活動の概要
2008年部会フォーラムの企画
19年度部会運営体制
19年度部会表彰について 受賞者と表彰内容
(参考)運営委員会議事メモ

以 上

総会に引き続き部会表彰を行ないます。

(WEBで閲覧の方へ)資料1の19年度決算と20年度予算の表、及び20年度の部会
配布金の表は別に掲載するPDFファイルをご覧ください。

社会・環境部会 平成 19 年度 活動概要

1. シンポジウムの開催

・19 年度の部会主催シンポジウムとして、中越沖地震を地震報道に着目し、風評被害問題をテーマとして、情報伝達のあり方を模索する企画の検討を行なったが、今年度の開催にはいたらず引き続き次年度開催に向けて検討中。

2. チェインディスカッション

北九州国際会議場での開催

討論テーマ 「原子力の法規制はどうあるべきか」

日時 : 平成 19 年 2 月 28 日 (金) 13:00 ~ 14:30

場所 : 学会秋の大会 A 会場

座長 : 日本原子力発電(株)参与 下山 俊次氏

講演 : 原子力法規制研究会の活動について

東京大学 大学院工学系研究科 西脇 由弘氏

原子力発電所の原子力法制の課題

東京電力(株) 原子力設備管理部 丸茂 俊二氏

原子炉等規制法の問題点と原子力立国計画の着実な推進に向けて

大阪大学 大学院工学研究科 田邊 朋行氏

大阪大学での開催 (予定)

討論テーマ 「原子力災害以外のリスクマネジメントのあり方」

日時 : 平成 20 年 3 月 28 日 (金) 13:00 ~ 14:30

場所 : 学会春の年会 N 会場

座長 : 東京大学 諸葛 宗男教授

講演 : 原子力発電所のリスクマネジメント

日本原子力産業協会 宅間 正夫氏

他産業における事業継続計画 (BCP)

~ 経営者はリスクを正しく認識しているか ~

損保ジャパン 山本 雅司氏

3. マスコミ関係者への原子力セミナー (勉強会)

19 年度第 1 回開催

テーマ 「最近の米国の原子力の動向」

日時 : 平成19年8月28日(火)17時30分～19時

場所 : 日本原子力学会事務局会議室

講師 : 日本テピア 窪田 秀雄氏

参加マスコミ :

19年度第2回開催

テーマ 「ウラン資源を巡る世界の情勢と電力業界の対応」

日時 : 平成20年2月21日(木)17時45分～19時15分

場所 : 日本原子力学会事務局会議室

講師 : 東京電力(株) 原子燃料サイクル部長 鈴木 一弘氏

参加マスコミ :

4. 「マスメディア報道と原子力世論に係るデータベース構築と拡充」特別専門委員会

第1回 19年9月14日(金)

- ・ 今年度活動計画
- ・ 世論調査の作業計画
- ・ マスコミ対応WGの作業計画

第2回 20年3月14日(金)予定

- ・ マスコミWG活動報告
- ・ 世論調査WG活動報告

5. 原子力安全と社会環境に関するワークショップ

第二回開催

日時 : 19年9月12日(水) 13時～17時

場所 : 東京大学 浅野キャンパス 武田先端知ホール

内容 : 原子力発電の運転保守管理の再構築
一般産業における不適合管理
パネルディスカッション

第三回開催(予定)

日時 : 20年3月10日(月) 13時～17時

場所 : 東京大学 浅野キャンパス 武田先端知ホール

内容 : ヒューマンファクター分野
品質管理分野
パネルディスカッション

8. 部会運営活動経過

8.1 総会

平成19年9月28日 秋の大会（北九州国際会議場）

平成19年3月28日（予定） 春の年会（大阪大学）

8.2 委員会開催状況

平成19年 6月 1日 第1回総務・企画小委員会

7月 2日 マスコミとの関係強化WG

7月10日 第1回運営委員会

9月18日 第2回総務・企画小委員会

12月 7日 表彰、総務小委員会

平成20年 2月 1日 表彰、総務小委員会

3月 7日 第2回運営委員会

以上

資料3

2008年社会環境部会フォーラムの企画

1. 概要

2008年10月13日から18日まで青森市で開かれるPBNC2008に米国ローレンスリバモア研究所のトム・アイザック博士他1名を招聘し、Public Information and Outreachのセッションで米国とカナダにおける高レベル廃棄物処分場の立地プロセスにおける公衆の理解獲得活動から得る教訓と題して発表してもらい、PBNC開催日の前後に、日本の高レベル廃棄物処分場立地政策関係者からも招いて、立地プロセスにおける公衆の理解の獲得についてのフォーラムを行う。

なお、招聘する他の1名は、小中学生の原子力に対する理解を自身の研究の一環として進めているカリフォルニア大学の学生で、PBNCでの発表の他、フォーラムとは別にYGN等若手研究者グループとの意見交換会を実現する。

2. フォーラムの概要

- ・ フォーラムのテーマ「高レベル廃棄物処分場立地における公衆理解の獲得活動」
- ・ 日時：2008年10月13日から18日の前後
- ・ 場所：東京（未定）
- ・ フォーラム議事概要（同時通訳つき）
 - 1) アイザック氏の講演「米国とカナダにおける高レベル廃棄物処分場の立地プロセスにおける公衆の理解獲得活動から得る教訓」
 - 2) NUMO（未定）「日本の高レベル廃棄物処分場立地の進め方」
 - 3) JAEA（未定）「立地を進めるための前提：処分場の技術的な成立性」
 - 4) パネル討論「公衆の理解獲得活動のあり方」

3. 予算

- ・ 航空運賃：100万円（@50万円*2）
- ・ 会場借料：17万円
- ・ 同時通訳経費：50万円
- ・ 講演者謝金：8万円（@2万円*4）
- ・ 東京 - 青森移動旅費：11万円（@2.7万円*4）
- ・ 宿泊等経費：14万円（@1万円*7泊*2）
- ・ 合計：200万円

資料4

平成19年度運営委員

	名前	所属
部会長	班目 春樹	東京大学
副部会長	横手 光洋	原子力文化振興財団
企画小委員長	諸葛 宗男	東京大学
運営委員	富森 卓	電気事業連合会
	長岡 豊	原子力安全システム研究所
	清水昭比古	九州大学
	宇根崎博信	京都大学
	酒井 幸美	原子力安全システム研究所
	久保 稔	サイクル機構
	高橋 信	東北大学
	三島 毅	日本原燃
	時澤 孝之	日本原子力研究開発機構
	大場 恭子	金沢工業大学
	田中 博	電力中央研究所
	小林 容子	テプコシステムズ
	木村 浩	東京大学
	蛭沢 重信	IILP - 総合工学研究所
事務局長	吉井 裕	日本原電

社会・環境部会 運営委員会体制(案)

平成20年度 運営委員(案)

名前	所属	メールアドレス	任期	
諸葛 宗男	東京大学	morokuzu@pp.u-tokyo.ac.jp	平成22年3月末	再
横手 光洋	原子力文化振興財団	yokote@jaero.or.jp	平成21年3月末	
三島 毅	日本原燃	tsuyoshi.mishima@jnfl.co.jp	平成22年3月末	再
富森 卓	電気事業連合会	tomimort@fepec.or.jp		
長岡 豊	原子力安全システム研究所	nagaoka@inss.co.jp	平成22年3月末	再
清水 昭比古	九州大学	shimizu@ence.kyusyu-u.ac.jp	平成22年3月末	再
宇根崎 博信	京都大学	unesaki@kuca.rr.kyoto-u.ac.jp		
森崎 利恵子	エネルギー広報企画舎	enekokikakusya@hid.bbiq.jp	平成22年3月末	新
久保 稔	日本原子力研究開発機構	kubo.minoru@jaea.go.jp	平成21年3月末	再
高橋 信	東北大学	makoto.takahashi@qse.tohoku.ac.jp		
澤田 隆	三菱重工	takashi_sawada@mhi.co.jp	平成22年3月末	新
時澤 孝之	日本原子力研究開発機構	tokizawa.takayuki@jaea.go.jp	平成22年3月末	再
大場 恭子	金沢工業大学	kyou@neptune.kanazawa-it.ac.jp	平成21年3月末	
田中 博	電力中央研究所	htanaka@cripi.denken.or.jp	平成21年3月末	
小林 容子	テプコシステムズ	kobayashi-youko@tepsis.co.jp	平成21年3月末	
木村 浩	東京大学	kimura@utnl.jp	平成21年3月末	
蛭沢 重信	IILP - 総合工学研究所	hirusawa@iae.or.jp	平成21年3月末	
吉井 裕	日本原電	yutaka-yoshii@japc.co.jp	平成21年3月末	

	業績賞	優秀発表賞	優秀活動賞	優秀活動賞	奨励賞
受賞候補者	該当なし	該当なし	オープンスクール委員会 委員長 鈴木 正昭 (東京工業大学大学院理工学研究科教授) 功労者 小田 啓二 (神戸大学大学院海事科学研究科海事科学専攻 教授)	ウイメンズ・エナジー・ネットワーク(WEN) くらしと放射線プロジェクト プロジェクトリーダー 碧海 西葵(消費生活アドバイザー) WEN代表 浅田 浄江(消費生活アドバイザー) 他プロジェクトメンバー18名	愛知県立鶴城丘高等学校 エネルギー研究チーム 8823(ハヤブサ) 岩瀬 満 犬塚 法子 廣原 巳規香 小堺 由麻 本多 克哉 稲垣 浩平 大野 敬子 高須 智美
受賞対象の成果			原子力技術の次世代層への継承機会の提供と原子力知識の一般市民への普及活動	放射線知識の一般市民への普及についての継続的活動	文部科学省の「高校生対象の原子力・エネルギーに関する地域との関わりに関する調査研究活動」と題する事業に参加し調査活動を行い、12月末に東京で行われた活動成果の発表会で最優秀賞を得た。
受賞対象の概要			<p>原子力学会のオープンスクール活動は、平成4年の東海大学における春の年会から継続的に行われている。受賞対象者は、オープンスクール構想が企画委員会にて議論されたはじめの段階から、積極的にこの活動に携わり、以来15年に亘り、オープンスクール活動の牽引者である。</p> <p>オープンスクールの目的は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の理科離れ、特に原子力離れをくい止めるための原子力技術情報の次世代層への提供 2. 一般市民への原子力知識の普及 <p>であり、社会環境部会の趣旨に叶う活動を行っている。さらに、オープンスクールの場において、参加する学生の意見や動向を掴むことができることも大きなメリットである。さらに、とかく閉鎖的とみられている学会の体質を社会に対して開かれたものにするという効果もあげている。</p>	<p>ウイメンズ・エナジー・ネットワーク(WEN)は、1993年に設立された非営利任意団体で、エネルギー関連の広報分野に携わる女性とその活動を支援する女性が会員となっている。目的は、企業と一般の生活者のパイプ役として、エネルギーに関わる情報をわかりやすく伝え、女性や次世代の人々が、エネルギーに対して、自ら正しい選択をするための活動を行っている。現在正会員が約90名、賛助会員(男性が主体の活動理解者)約30名となっている。</p> <p>中でも放射線の知識普及活動については、2001年11月に「暮らしと放射線プロジェクト」を発足させ現在まで、継続して、全国的にフォーラム開催、勉強会、見学会などを実施して、大きな成果をあげている。このプロジェクトができたきっかけは、女性が、生活のいろいろな場で利用されている放射線をどのように認識しているか、放射線に対する抵抗感や関心はどうか、情報の提供をどの程度受けているのかなどに興味を持ったことで、自らの生活者として、女性としての素朴な体験からの発想で広がった活動は、多くの女性たちの共感を得ている。</p> <p>さらに、プロジェクトでは、発足当初実施したアンケート調査の結果を踏まえ、わかりやすい小冊子を作成し、関連行事や、会員が関わる広報活動で配付し、正しい知識の普及に役立たせている。</p> <p>下記にプロジェクトの活動実績を記する。</p> <p>プロジェクトの活動 2008年01月 フォーラム「くらしと放射線」(川口)開催 2007年09月 フォーラム「くらしと放射線」(山形)開催 2007年01月 見学会「(株)第一ラジオアイソトープ研究所 千葉工場」実施 2006年12月 フォーラム「くらしと放射線」(三鷹)開催 2006年06月 フォーラム「くらし・女性・科学～放射線を事例に～」(青森)開催 2005年12月 フォーラム「くらし・女性・科学～放射線を事例に～」(千葉)開催 2005年09月 「くらしと放射線」に関するアンケート調査(第2回)実施 2005年01月 フォーラム「くらし・女性・科学～放射線を事例に～」(熊本)開催 2004年09月 フォーラム「くらし・女性・科学～放射線を事例に～」(横浜)開催 2004年07月 見学会「粒子線医療センター・Spring 8」実施</p>	<p>鶴城丘高等学校のエネルギー研究チーム 8823(ハヤブサ)は、原子力やエネルギー、環境に関する電力生産地と消費地の高校生の意識を比較するために、原子力発電の立地の多い福井県の敦賀高等学校に協力を要請し、意識調査を実施した。</p> <p>対象は、電力消費地としての鶴城丘高等学校が714名、電力生産地の敦賀高等学校は、214名の高校生。</p> <p>調査項目は、「石油と生活との関わりについて」、「毎日使うエネルギー量は、世界の中ではどれくらいか」、「将来、どのようなエネルギー源が望ましいか」、「環境で最も関心をもっているのか何か」、「今後、原子力発電をどうするべきか」、「火力、水力、風力、太陽光、原子力発電の環境調和性やコスト、リスクのイメージ」などである。</p> <p>「将来、どのようなエネルギー源が望ましいか」という設問では、鶴城丘高等学校の生徒は、原子力と回答したのが1割程度、敦賀高等学校の生徒は、約3割となった。両校とも太陽光発電が最も多いのが共通であったが、原子力発電に対する考えに大きく違いがたよった。</p> <p>「今後、原子力発電をどうするべきか」という設問では、敦賀高等学校では原子力発電を増やす、もしくは現状維持していくべきと回答した生徒が7割に達し、鶴城丘高等学校は5割に満たなかった。原子力について「知っているか」、「知らないか」によって、そのままエネルギーへの意識につながったと考察している。</p> <p>さらに、研究チームの生徒たちは、原子力発電については、正しい知識を得てから判断すべきであり、そのためにも消費地である鶴城丘高等学校の高校生たちにも「知る」機会を増やし、本当の姿を示せば誤解は解けるとし、啓発活動の重要性を指摘している。</p> <p>具体的な行動として、各教室や廊下での電気、水、灯油の節約の呼びかけポスターを提示、校内放送による省エネルギーと地球温暖化防止の啓発活動を行った。</p> <p>また、原子力発電の誤解を解消するために、専門家の講義をはじめ、美浜発電所やもんじゅなどの見学を行い、エネルギー事情の理解や施設の安全性を実感している。</p> <p>なお、メンバーの一人は、2007年11月に新人体育大会少林寺拳法の弁論の部において、本活動に関する</p>

				<p>2003年11月 フォーラム「くらしと放射線」(静岡)開催 見学会「中部電力(株)浜岡原子力発電所ほか」実施 2003年10月 見学会「沖縄県ミバ工対策事業所」実施 2003年03月 見学会「農業生物資源研究所放射線育種場」実施 2002年12月 フォーラム「くらしと放射線」(大阪)開催 2002年11月 見学会「北海道札幌農業協同組合」実施 2002年09月 フォーラム「くらしと放射線」(いわき)開催 2002年08月 小冊子「わたしたちのくらしと放射線」発行 2002年03月 フォーラム「くらしと放射線」(東京)開催 2001年12月 「くらしと放射線」に関するアンケート調査実施 2001年11月 プロジェクト発足(活動メンバー:10名)</p>	<p>発表を行い、最優秀を勝ち取っている。 これらの活動成果は、壁新聞にまとめられ、12月26日に東京で行われた本事業の参加校(全国から10校参加)による活動内容の発表会において最優秀賞を獲得した。</p>
<p>推薦理由</p>			<p>現在、春、秋の年会はもとより、様々な地域において多くのオープンスクール活動が行われている。受賞対象者は、そうした全国展開の活動が円滑に運ぶように、企画へのアドバイス、予算の手当てなど、実施担当者の相談役として、長年尽力されてきた。この機会に、オープンスクールの業績を高く評価するとともに、お二人の労に報いるために、推薦したい。</p>	<p>推薦者は、WENの一会員として、設立以来のWEN活動をともに行ってきたが、会員は、ほとんどボランティアで、長年、手作りの活動を続けてきた。 プロジェクト・リーダーの碧海さんは、WENの創業者であり、一般市民に放射線を正しく理解することを、日本人の将来に必要なと確固たる信念で頑張っておられる。 浅田さんは、WENの代表として、「くらしと放射線プロジェクト」の活動を対外的に紹介し、各事業において、碧海さんとともに尽力されている。またプロジェクトメンバーも、相互協力し、7年の永きに亘って継続的な努力を積み重ねてきた。 このたび、このプロジェクトのこれまでの努力と今後のますますの活躍を願って、社会環境部会賞優秀活動賞の対象として推薦したい。</p>	<p>鶴城丘高等学校の生徒の活動で、顕著な点は、自らの調べ学習だけでなく、自分たちの活動成果を具体的な行動へとつなげ、多くの生徒に発信していることである。 まず、意識調査活動では、自分たちの学校の生徒だけでなく、電力生産地である福井県の敦賀高等学校の生徒にも調査の協力を依頼し、調査対象を広げ、比較を行っている。 調査結果を通して、消費地である自分たちの住む地域の生徒たちが、原子力・エネルギーについて、日頃どのように感じているのか、さらに敦賀高等学校の生徒との意識の違いは何かを比較し、原子力発電やエネルギー、地球温暖化問題に関する理解を深め、さらに具体的な行動につなげている。 具体的な行動のひとつに、専門家の講義の受講や美浜や敦賀の原子力発電所、もんじゅ等を訪問し、エネルギー事情とともに、施設の安全対策などについて、実際に見て、聞いて、体感していることがある。 また、学校内での他の生徒達にも省エネルギーの意識を喚起するために、電気や水、灯油の節約を呼びかけるポスターを自ら制作している。さらに、校内放送を通して、エネルギーや地球温暖化防止を呼びかける普及啓発活動を行っている。生徒の一人は、少林寺拳法部に属し、その弁論の部において、自分たちの活動をさらにアピールしている。 発表会でも、「日頃、エネルギーや地球温暖化などの課題について危機感をもっていない自分たちでできることは、正しい知識を身近な人へ伝えることである」と強調していた。 よって、今回の鶴城丘高等学校による活動は、原子力と地域社会の接点をつなぐ理解と普及活動に大きく貢献していると思われるため推薦する。</p>